

50年後の国造りに向けて

道栄株式会社 技術部
フェロウ会員 山本 武夫

1 はじめに

私は、今現在の日本は物的には豊かな国であると実感している。昭和30年代を思えば江戸時代に整備された国土インフラを使って、国土経営を行っていた。その後昭和40年代以降大幅な国土整備が行われ、土木構造物が整備されてきた。これから50年後はこのインフラを活用し、豊かで美しい国を創る時代である。今の世の中は豊かであるが美しいか、安全か、環境は充分かと言われればまだまだ不十分と言わざるをえない。交通事故で1万人が死んでいる、東京では毎日の渋滞により、1兆円／年の損失が出ている、雑然とした町並みは美しいといえるのか、これからはこのような問題に対処し解決する時代であると考え。

2 直感の必要性

本文は筆者の40年間の経験が直感したことを述べる。理論的に分析整理した物ではないことを最初に行っておく。しかしこの様アプローチも話題提供に大事なことである。梅原氏は直感は物事の大事さを言わしたので、これに力を得て以下に述べる。

梅原氏談

ある事を見て、氏は直感した。「～～なら、～～に違いない」と思った。こうした直感は学問の世界では胡散臭く思われるが、私はあらゆる発見には折口信夫が「幻視」と名付けた奔放な想像力が重要な役割を果たすと考えている。（文芸春秋 平成14年4月 P. 162）

3 国土、環境の経営責任者の必要性

私たち土木技術者は土木技術を駆使し道を、河川を、土木構造物を造っている。しかし国土、環境の時間的、平面的経営責任者は不在である。ここの責任者は明確であるが、大きく国土全体となると見えない。事故で1万人が死ぬ、渋滞で1兆円の損失が出る、環境が守れない、美しい町が作れない、この責任者は誰だ。今後10年以内に責任者を造らないと、従前通りで前進しない。責任者は物事が解決しないと切腹するぐらいの覚悟であたる覚悟と、権限を持つ必要がある。

4 造るから使うへの主体の変更

我々は今まで造ることに主体を置いてきた。当然無いのだから造らねばならない。今やかなりの物が整備された現状に置いては、これらの構造物を如何に上手く使うかに主体を置かねばならない。使うにあたって障害になるのは、使用料金である。例えば高速道路について言えば、その通行料金が高すぎない、逆の見方をすれば料金抵抗をかけて、利用できないようにしている事である。各人が努力し、人生を賭けて造った高速道路を床の間の飾り物にしている現状は、制度を整備し今の1/5～1/10の料金にする必要がある。

キーワード 高速道路、長期計画、国土経営

連絡先 160-0023新宿区西新宿1-9-18道栄株式会社
TEL:03-3343-5607
FAX03-3342-5675

5 美意識の教育

美しい国を創る。このためには教育が必要である。今のままでいいのか、国民全員が協力して美しい国創りをするのか総意の形成が必要である。この問題は土木関係者の問題ではない。国民全体の問題である。教育をしそれが実現するには30年位の時間が必要である。どの様な国造りをするのか、早急に合意形成し、取り組む必要がある。

6 交通事故対策

現状では100万人が交通事故で負傷し、1万人が死亡している。そしてそれがあまりにも問題視されていない。航空機事故で1万人死者が出たら、鉄道事故で1万人死亡事故が出たら大事である。原因は個人が不注意で事故を起こす事にある。しかし事故は突き詰めれば個人の問題になるが、そうなら無いよう管理者が必要な管理をしている。交通事故ではこの管理が甘いと考える。他の交通機関のように管理者を定め、そのものに責任をとらせるようにする事が必要である。

7 渋滞対策

渋滞対策は交通量が多いから渋滞は当たり前と言う認識では物事は前進しない。必要な拡張をする、必要な立体化をする。これについても渋滞対策の責任者が必要である。

8 都市部の立体化対策

交通量の多い都市部では土地が不足するため立体化が必要である。道路の上を立体化する、必要ならビルの中でも道路を造る技術が必要になる。
又美しい町並みを都市部に創るには既施設が多いため立体化の技術が必要になる

9 環境対策

環境基準は守らなければ意味がない。交通量が多いから基準は守れないでは物事は進歩しない。厳しいところはシェルターを掛けてでも基準を守る必要がある。これについても守る責任者が必要である。

9 今後50年間の詳細設計図の必要性

沢山の物は一挙には出来ない。物事には順番がある。これを国民に分かるように図面にして合意形成が必要である。ある時突然そのけそのけでは合意形成は出来ない。10年スパンの時間的设计図、50年この最終設計図をみんなで合意する必要がある。

以上